

科目名 Course Title	大学院共通授業科目:新渡戸カレッジオナーズプログラム大学院カリキュラム		
講義題目 Subtitle	グローバル発展科目 II		
責任教員 Instructor	伊藤 秀臣 [ITO Hidetaka] (大学院理学研究院)		
担当教員 Other Instructors	ロマーエヴァ マリーナ [LOMAEVA Marina] (高等教育推進機構)		
	ホイットフィールド デールリー [WHITFIELD Dale Lee] (高等教育推進機構)		
	三浦 篤志 [MIURA Atsushi] (大学院理学研究院)		
科目種別 Course Type	大学院共通授業科目	他学部履修等の可否 Open To Other Faculties / Schools	可
開講年度 Year	2024	期間 Semester	2 学期(冬ターム)
授業形態 Type of Class	演習	単位数 Number of Credits	2
対象学科・クラス Eligible Department / Class	-	対象年次 Year of Eligible Students	-
時間割番号 Course Number	101239	補足事項 Other Information	-
ナンバリングコード Numbering Code	IGS_IDS 9211		
大分類コード・名称 Major Category Code / Title	IGS_IDS・大学院共通授業科目(複合領域)		
レベルコード・レベル Level Code / Level	9・その他(海外への留学を内容とするものなど、レベル分けが出来ない科目)		
中分類コード・名称 Middle Category Code / Title	2・キャリアマネジメント		
小分類コード・名称 Small Category Code / Title	1・キャリア開発		
言語 Language Type	英語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Course list by the instructor with practical experiences	-		
キーワード Key Words			
問題発見、「3+1の力」(能力更新力、組織形成力、社会還元力、専門職倫理)、プロジェクトマネジメント、フィールド調査、データ収集・分析、文献レビュー、チームビルディング、チームマネジメント、コミュニケーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、クリエイティブシンキング、クリティカルシンキング、リーダーシップ			
授業の目標 Course Objectives			
本科目では、与えられたテーマについてフィールド調査によって収集した一次データを分析して、解決すべき問題の発見や自明とされる問題の批判的な検討を行う。また調査結果を的確にまとめて一般公開の場で発表し、プロジェクトの結果を社会(調査の協力者・対象者含む)に還元することによって、自らの専門性が持つ社会への影響力、専門職倫理への意識を高める。調査研究などアカデミックなものにとどまらず、すべてのプロジェクトは「問い」すなわち問題の設定からスタートする。あえて、問題発見をプログラムの締めくくりに取り組むことで、将来のキャリア形成に不可欠な「問うこと」の重要性を再認識し、意義のある問題を設定するために必要な能力を身につける。			
到達目標 Course Goals			
<ul style="list-style-type: none"> ・意義ある問題の発見に向けて、きっかけとなる問いの設定、調査地・調査対象の選定、調査方法の検討など調査計画を立てることができる。 ・培ってきたコミュニケーション能力を活用し、参与観察、インタビュー、フォーカスグループ、調査などを実施することができる。 ・調査の過程で発生する倫理的問題を想定した準備を行うことができる。また、問題が発生した場合、適切に対処できる。 ・収集したデータを整理し、コンテキストに照らして客観的に分析して、議論を組み立てることができる。 ・調査・研究の成果を発表し、また求めに応じてプロジェクトの参加者・協力者、その他広くステークホルダーに適切に開示することができる。 			
授業計画 Course Schedule			
<p>【第1週】コースオリエンテーション、テーマの理解 新渡戸カレッジにおける本科目の位置付けを説明する。全 8 回の授業の進め方、評価方法、履修要件などについて説明する。その後、各チームでそれらのテーマについて議論を行い、理解を深める。</p> <p>【第2週】フィールド調査のための計画立案(プロポーザルの作成) プロジェクトマネジメントの知識とスキルを駆使して、フィールド調査の計画を作成する。</p>			

教員から提示された雛形に沿って、(1) 調査の目的と目標 (何をやるか)、(2) 調査の重要性 (なぜやるか)、(3) 調査方法 (どうやるか)、(4) 想定される倫理的問題についてチームで議論し、プロポーザルを作成・提出する。

【第3週】プロポーザルの精査、フィールド調査の実施

必要に応じて計画を精査し、立案を継続する。すでに計画を固めたチームはフィールド調査を開始する。

【第4週】プロポーザル発表

作成したプロポーザルを基に調査計画について発表し、他の学生からのコメントを受けて、必要があればプロポーザルの見直しと改訂を行う。すでに調査を開始しているチームは、その進捗状況と調査における経験について他のチームと共有する。

【第5～6週】フィールド調査の実施、データの分析と議論の組立て

計画に従いフィールド調査を実施し、データの分析と議論の組立てを進める。

【第7週】プレゼンテーションに向けた準備

調査結果の分析と議論に基づいたプレゼンテーションの準備を行う。プレゼンテーションでは、問題発見に至ったプロセスを明示する。

【第8週】最終プレゼンテーションおよび振り返り

プログラムの学修成果の還元の一環として、プロジェクト成果発表を学内外、関連するステークホルダーに開かれた形で実施する。さらに、発表内容のチームレポートを提出する。プレゼンテーションとチーム全体を通じた振り返りを行い、今後に向けた考察を行う。

2024 年度の授業スケジュールは以下の通りである。

2024/12/4～2025/1/22 の毎週水曜(2025/1/1 を除く)、5 限 6 限; 第 1 回、第 2 回、第 4 回～第 8 回授業

2024/12/14 土曜; 第 3 回授業(メンターフォーラムを含む)

準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework

プロジェクトに関わるファイル(プロジェクトプロポーザル、2 次資料、フィールドワークで収集した各種データなど)を NPF のチームページにアップロードすることでチーム内でプロジェクトの進捗について認識を共有し、必要に応じて計画の修正を行う。また、毎授業後、新渡戸ポートフォリオ(NPF)を通じて学習の成果、授業内容についてのコメントおよび自己評価の提出が求められる。

成績評価の基準と方法 Grading System

授業への積極的参加とチーム学習への貢献、プロジェクトの発表とチームレポート、学修記録と自己分析、授業内容へのコメント、「3+1 の力」の自己評価、が評価対象となる。その他、必要に応じて評価に関わる課題が追加された場合は、随時説明がある。

テキスト・教科書 Textbooks

必要に応じて指示する。

Supplementary materials are instructed or provided, where appropriate.

講義指定図書 Reading List

必要に応じて指示する。

Supplementary materials are instructed or provided, where appropriate.

参照ホームページ Websites

<https://nitobe-college.academic.hokudai.ac.jp/>, <https://nitobe-college.academic.hokudai.ac.jp/en/>

研究室のホームページ Websites of Laboratory

特記事項なし

備考 Additional Information

本科目は、新渡戸カレッジオナーズプログラム大学院カリキュラムの主要科目である。受講には、同カリキュラムへの入校を認められた者であること、および同カリキュラムの「グローバル発展科目 I」を修得していること、が前提条件となる。

履修に関する詳細については、必ず新渡戸カレッジオナーズプログラム大学院カリキュラムの入校・履修の手引きを参照すること。

また、本科目はフィールドワークを行うため、受講に先立って学生教育研究災害傷害保険(略称「学研災」)等の傷害保険(あるいは学研災付帯賠償責任保険(略称「学研賠」)等の損害賠償保険)に加入すること。なお、フィールドワークは授業時間外にも行う場合がある。

本科目に関する問い合わせ先; nitobecollegegraduates@high.hokudai.ac.jp